

第35回森と花の祭典 「みどりの感謝祭」

感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり

「みどりの感謝祭」式典

毎年、4月15日から5月14日までは、みどりについての関心と理解を深める「みどりの月間」です。森と花の祭典「みどりの感謝祭」は、全国各地の緑化行事の締めくくりの行事です。

今年5月9日（土）に、本感謝祭の名譽総裁に御就任された佳子内親王殿下の御臨席の下、衆参両院議長、鈴木農林水産大臣、そのほか関係者の約300名の方々に御出席いただき、東京都千代田区のイイノホールにて式典を執り行いました。

はじめに、主催者を代表して鈴木農林水産大臣が、本感謝祭の意義や森林の役割などに触れて挨拶し、続いて、佳子内親王殿下からおことばを賜りました。その中で殿下は、岩手県大槌町など各地で発生している山火事による被害について触れられ、「被害にあわれた方に心からお見舞いを申し上げますとともに、対応に力を尽くしてこられた方に深く敬意を表します。そして今後、各地で大切にされてきた森林が再生されていくことを願っております。」と述べられました。

この後、みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰をはじめ、花いっぱい運動や緑化活動に取り組む緑の少年団等への苗木と花の特別贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞者の表彰を行いました。

式典の最後には、令和9年春に全国植樹祭が開催される奈良県を代表し、同県吉野郡黒滝村で活動している黒滝や



鈴木農林水産大臣による主催者代表挨拶



佳子内親王殿下からのおことば



山火事予防ポスター用原画入賞者の表彰



苗木と花の特別贈呈



受賞者等へのお声かけ (上) (下)



みどりの少年団による誓いの言葉



みどりの感謝祭の併催行事として、5月9日(土)と10日(日)の2日間、東京都八王子市内の高尾599ミニユージアムの敷地内で、「みどりとふれあうフェスティバル」を開催しました。

みどりとふれあうフェスティバル

まなみ小中学校みどりの少年団から、歴史ある吉野林業の地において積み重ねてきた緑化活動の取り組みを背景に、力強い誓いの言葉が述べられました。

また、式典に先立って、佳子内親王殿下から各受賞者等へのお声かけが行われました。内親王殿下から奈良県の緑の少年団の小学生に、「これからも緑の活動頑張ってください。」とお言葉をかけられるなど、受賞者などと和やかな雰囲気での交流が行われました。



両日とも天気恵まれ、初夏のさわやかな空気の中で、20の団体がみどりや木材に関する普及や体験のブースを出展しました。林野庁からは「レクリエーションの森」(国有林で見られる動植物や、「森林(もり)の環(わ)応援団」であるサザエさん一家がデザインされたオリジナルバッジ作りの体験、林野庁施策の展示等を行いました。缶バッジには、そのデザインの元である「レクリエーションの森」について、より詳しく学べるQRコードも印刷されていて、缶バッジづくりをきっかけに、森林に触れるきっかけづくりとなりました。

